

## 令和元年第2回議会定例会（所信表明）

次に、本日は、市長として初めての定例会にあたり、今後の市政運営における私の所信の一端を述べさせていただき、市民の皆様、議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、この度、執行されました白井市長選挙におきまして、白井市長に当選させていただき、白井市の舵取りを任せていただくこととなりました。

6万3,400人を超える市民の皆さん、臨時・非常勤を含め約800人もの職員と、その家族の人生の一端を担う責任、そして、197億円規模の一般会計予算と特別会計約124億円もの予算を執行することの、責任の重さを痛感し、改めて身の引き締まる思いでございます。

白井市は、都心に近いながらも、豊かなみどりに恵まれた良好な住宅地が形成され、特産の梨をはじめとする農業を基幹産業に、優秀な技術と実績を持つ企業を有する工業団地を兼ね備えた、小さくてもキラリと光る都市へと発展をしてまいりました。

これは、歴代の首長をはじめ、議員各位、白井を愛する多くの皆様が身を削りながらご努力いただいた成果であり、就任にあたり、これまでご尽力いただきました多くの皆様に、改めて感謝と敬意を表するとともに、私もその思いをしっかりと受け継ぎながら、白井市をもっと豊かに発展させるため、全身全霊で市政運営に取り組む覚悟であります。

さて、白井市のみならず、地方自治体を取り巻く状況は、少子・高齢化の進展や人口減少に伴う税収の減少、社会保障関連費の増大、道路などのインフラや公共施設の老朽化など、多くの課題が山積しており、これまで千葉ニュータウン開発により着実に発展してきた白井市にとって、経験したことのない、極めて難しい局面を迎えることとなります。

このような状況下ではありますが、私は、選挙から一貫して「白井をもっと豊かに、市民、ひとりひとりが自分なりに、生活の豊かさが実感できるまちづくりを実現していくこと」、そして、「魅力あふれる白井を次世代に残していくこと」を基本として、5つの施策の柱を掲げてきました。

- 1 つめには、もっと子育て教育のまちに
  - 2 つめは、もっと元気で健康なまちに
  - 3 つめは、もっと安全・安心なまちに
  - 4 つめは、もっとみどり豊かで快適なまちに
  - 5 つめは、もっと健全な行財政運営なまちに
- であります。

まず、第1の、「もっと子育て教育のまちに」について、申し上げます。子どもは、まちの宝でございます。

これからの社会を担う子どもたちを、しっかりと守り、育ていくことは、白井市をはじめ、日本の未来を築くことにつながります。

子どもたちが、自分たちのまちに誇りと愛着を持ち、生涯をとおして住んでもらえるよう、教育環境の一層の改善とともに、教育レベルの向上を目指すため、ICTを活用した教育環境の充実を図ってまいります。

また、妊娠・出産・子育てをおこなう家庭の育児不安の解消や、放課後子ども教室の充実など、魅力が感じられるような支援を図り、子育て世帯の定住促進に取り組んでまいります。

第2の、「もっと元気で健康なまちに」について、申し上げます。

私は、平成12年9月に白井市で制定した「健康文化都市」宣言について、当時、担当職員として係わっており、市民の健康づくりとその健康を支える環境づくりの重要性は十分に認識しているところです。さらに昨今は、「人生100年時代」と言われ、子どもから高齢者まで、障がいがある方も、ない方も全ての人が元気に活躍できる社会、安心して暮らすことができる社会を築くことが重要であります。

子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージに応じた健康づくりを推進するため、家庭・学校・職場・地域における様々な事業を関係者、関係団体と連携・協力しながら進めてまいります。

第3の、「もっと安全で安心なまちに」について、申し上げます。

近年、予想を超える大規模な災害が各地で発生しております。また、今後30年以内に、南海トラフ地震、首都直下型地震が起きる可能性が高いと報道されています。

こうした大規模災害に備えて、まずは、市民の皆さまの防災に対する意識を高め、自助、共助、公助の連携を強化するための仕組みづくりを促進させていきます。また、災害発生時における被害を最小限に軽減するための減災対策とともに、関係機関との災害協定などの締結の拡充、SNS などの活用を含めた情報提供の強化など、災害に強いまちづくりを目指してまいります。

第4の、「もっとみどり豊かで快適なまちに」について、申し上げます。

白井市は、豊かな自然に囲まれており、この緑と調和のとれたまちづくりが進められてきました。今ある、豊かな自然や緑を守りながら、次の世代によりよい形で継承するための、緑を育む事業を、各関係団体などとの連携・協力により、拡充してまいります。

市内産業に目を向けますと、白井の特産品である梨はもちろんのこと、さらなる白井の名産品を掘り起こし、地元企業、商店街の活性化を図るべく、生産と消費の地域循環を促進し、地域産業のいっそうの振興につなげるよう取り組みを進めてまいります。

また、市民の皆さまの関心度が高い、北総線の運賃問題への対応として、従前の対話路線を継承し、千葉県や沿線6市との連携協力により、粘り強く協議を行ってまいります。

また、持続可能な公共交通網を確立するため、鉄道、循環バス、民間路線バス、タクシーの目的や役割を明らかにして、連携しながら、公共交通ネットワークの利便性の向上と充実に努めてまいります。

さらに、各地域を結ぶ生活道路の整備とともに、工業団地へのアクセス道路の整備についても積極的に取り組んでいきます。

第5の「もっと健全な行財政運営のまちに」について、申し上げます。

現在の白井市の財政状況は健全ですが、今後の白井市を取り巻く厳しい財政状況を見据え、これまでの市政の良い部分は継続し、変えるべきところは変えていく、令和の新時代にふさわしい改革が必要であると考えております。

これまでも行財政改革の取り組みは進めてきたところでございますが、さらに、行政サービスの質やコストを見極めながら、事業主体を民間事業者や市民に委託するなど、行政の効率化、スリム化を推進してまいります。また、限られた市役所職員のマンパワーを、最大限に発揮するため、職員の意識改革や市民との情報共有を図り、事業の見直しや事務改善を進め、職員の働く意欲を高めてまいります。

こうした取り組みと並行し、新たな財源の確保の方策を、積極的に開拓し、行政経営改革を強力に推し進めてまいります。

さて、この5つの「白井をもっと豊かに」という私の公約を実現するためには、市議会議員の皆さま、市民の皆さま、各種団体、事業者、行政の力を結集し、「オール白井」で取り組む必要があります。

この「オール白井」での取り組みのためには、市民ひとりひとりが自分事として、地域やまちづくりについて考え、創っていくという「真の市民自治」を進めることが、最も肝要なことと考えております。

このため、私は、地域の皆さまが主体となり、その地域課題を解決するための取り組みを実施する組織である、小学校区を単位とした「まちづくり協議会」の設立を加速させてまいります。

この取り組みを推し進めることで、地域性を生かした「子ども・子育て支援」や「健康づくり」、引いては「地域コミュニティの活性化」が期待され、さらには、重要課題である災害時の自助・共助体制づくりにもつながるものと考えております。

白井市は、スポーツや文化、ボランティア活動など、様々な分野で活躍されている皆さまが、多く、住んでいる、人材に恵まれたまちでございます。

皆様と力を合わせて地域力を高め、協働で魅力あふれる地域づくりに取り組んでまいります。

私は、昭和57年の入庁以来、37年間、市の職員として、市民の皆様の声に、真摯に耳を傾けてまいりました。

これからも、この軸は変わることはありません。価値観が多様化する中で、様々な意見に耳を傾け、それぞれの思いをしっかりと受け止め、さらに、ひとつひとつの課題解決に向け、合意形成のプロセスを大事にしていくことを、私の、市長としての基本姿勢として取り組んでまいります。

私たちは今、平成から令和に元号が変わり、新たな時代の幕開けを迎えたところであり、まさに白井市も、次のステージへの始まりの時であると捉えています。

私は、前期基本計画の各事業を着実に実施するとともに、公約である、「白井をもっと豊かに」するため、白井市の強みと特性をさらに活用して、魅力あふれる白井を築き、次世代を担う子どもたちに残していく決意でございます。

以上、今後の市政運営に関する所信の一端を申し述べさせていただきましたが、市政の推進に当たりましては、幾多の困難に直面することがあろうかと思えます。その時には、市議会議員の皆さま、市民の皆さまと話し合いながら、ともに手を取り合い、真正面から取り組んでまいりたいと考えておりますので、市議会議員の皆様をはじめ、市民の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。